

# 若手教師 の学び方 研究所

特別号  
令和2年  
11月30日

那覇市立識名小学校 松川 好孝

私はこれまで、多くの先輩方のご指導や同僚の支えによって教職の素晴らしさを実感したり、教職の難しさを乗り越えたりすることができました。このような教職のやりがいや醍醐味を味わうことができたのも、先輩方や同僚から教えてもらった「教師の学び」に他なりません。本稿では、私が先輩方や同僚と共に試みている「教師の学び」の考え方や具体をご紹介させていただきます。

You cannot teach a man anything; you can only help him to find it within himself.

人にものを教えることはできない。できることは、相手の中にすでにある力を見いだすこと、その手助けである。 – Galileo Galilei

**V** UCA時代。この言葉を初めて知ったのは3年前でした。その時に1つずつ具体を調べていくとどれも納得でした。今もまさにいろいろなことが変動したり、複雑化したり、不確実さが増したりしています。コロナ禍においては尚更です。さらに昨年出合った言葉で衝撃的だったのは「昭和じゃないよ。もう令和だよ」です。この言葉は、昭和時代の価値観を平成の間も維持して何も変わっていないという警鐘を鳴らしています。うちあたいでしまいました。このように物凄い速さで価値観が多様化し、誰もが経験したことのない対応が求められる令和時代。正解が無い時代。コロナ禍においては尚更実感しています。

そこで、VUCA化する社会での思考と行動について山口周氏は下記のように述べています（2019年7月）。私たち学校現場にも全く当てはまる視点だと個人的に痛感しています。

1つ目が「経験の無価値化」です。これまで私たちは「経験豊富」という要件を無条件にポジティブに評価してきたわけですが、環境がどんどん変化していくということは、過去に蓄積した経験がどんどん無価値になっていくことを意味します。このような世界にあっては、過去に蓄積した経験に依存し続けようとする人は早急に人材価値を減損させる一方で、新しい環境から柔軟に学び続ける人が価値を生み出すことになります。

2つ目が「予測の無価値化」という問題です。これまで、企業にしても個人にしても、何かを実行しようというとき、中長期的な予測をもとに計画を立てることが「良し」とされてきました。しかし、社会がより「不安定」で「不確実」になるということは「予測の価値」がどんどん減損していくことになります。このような時代にあって、計画に時間をかけ、立てた計画を実直に実行するという行動様式は極めてリスクが大きいと言わざるを得ません。今後はむしろ、とりあえず試し、結果を見ながら微修正を繰り返していくという、いわば「計画的な行き当たりばったり」によって、変化する環境に対して柔軟に適応していくことが求められます。

3つ目が「最適化の無価値化」という問題です。「VUCAな世界」では、環境は連続的に変化し続けていくわけですから、どこかの時点での環境に最適化てしまえば、それは次の瞬間に時代遅れなものになってしまいます。このような時代になれば、ある瞬間ににおいて環境への「最適化の度合い」はどうでもよくなり、むしろ変化していく環境に対して、どれだけしなやかに適合できるかという「柔軟性の度合い」の方が重要になってきます。

**上** 記の内容はコロナ前に書かれたものではあります、コロナ禍の今、より実感として感じられる部分があります。「どんどん変化する環境（特に今のコロナ禍）に対して柔軟に対応していくかどうかが大事」な気がします。また、松田孝氏（小金井市立前原小学校前校長/合同会社MAZDA Incredible Lab CEO）は「学校は子どもたちの未来に責任をもつ教育を展開する場」と述べています。そう考えると、私たち学校現場の人間こそこれから社会の変化に柔軟に対応できるように気をつけなければならないと思っています。

**前** 置きが長くなってしまいましたが、昨年度までは古蔵学習会、今年度は識名学習会という名称で私が先輩方や同僚と実践してきた学習会について紹介させていただきます。

開催時間は、週行事等が入っていない放課後（16:00～17:00）を利用し、いつでも参加しやすいように途中参加や途中退席を基本としています。参加対象は制限無しです。学級担任だけでなく、養護教諭も参加（識名小では図書司書も参加）してくださいました。毎回10～15名の参加があります。

## 識名学習会の目的

「指導方法」よりも「見方・考え方」をアップデートする

※見方・考え方 → 学校観・授業観・児童観

教育の根っこが分かれれば、あとはそれぞれが、それぞれの現場で、知恵を絞り合い、どうやったらそれを実現できるのか考え方についていくことができる。

吉野一徳（熊本大学准教授）

↑ 識名学習会でのプレゼンスライドより



習会の目的はただ1つです。先輩方がこれまで築かれてきた確かな教育観を私たち世代がしっかり継承することです。指導方法よりも「なぜその指導をするのか」という先輩方のこれまでの実践の意図や目的をつないでいくことです。工藤勇一氏（横浜創英中学・高等学校長）の「手段と目的を履き違えてはいけない」とも繋がりますが、「学校・学級によって子どもの実態は多様だからこそ、指導方法は教師の数だけある」「方法だけ追試しても同じ結果にはならない」という考え方からもきています。学習会のテーマは下記の通りです。

#### 【2018年度 古藏学習会】

第1回	誰でもできる学級崩壊マニュアル
第2回	一斉授業のメリットとデメリット ～フリーライダーを生まない視点から～
第3回	学校の目的・授業の役割
第4回	必ず来る「11月の荒れ」を防ぐには

#### 【2020年度 識名学習会】

第1回	そろそろ出てくる気になる子への対応
第2回	一斉授業のデメリットを補う「チーム」学習
予定	公正に個別最適化された学びの具体
予定	「オンラインでできること」と 「リアルでしかできないこと」の選別視点

#### 【2019年度 古藏学習会】

第1回	学級経営における4月の最優先事項
第2回	必ず来る「魔の6月」への備え方
第3回	こんな場面どう対応する? ～子どもの問題行動を目的論から捉え直す～
第4回	45分授業の組み立て方

※テーマの決め方は「若手教師の日頃の学級経営や学習指導で悩むこと」を基本に考えています。その対応方法よりもそれが起きてしまうメカニズムをもとに対応方法の目的をシェアするようにしています。

※経験と感覚だけに頼らず、[教育心理学・教育方法学・認知心理学](#)の視点から話題提示と分析をしています。

※話合いの拠り所はもちろん学習指導要領と文科省発表資料としています。さらに工藤勇一氏の言う「法令と慣例の区別」を心がけています。



習会を行うたびに毎回感じことがあります。それは、集まってくれる先輩方や同僚の熱量です。ご参加くださるお一人お一人の意識の高さに感動します。私一人では何もできません。みんなで一緒につくっていこうとしてくださるお気持ちに感謝です。また、「どんどん開きなさい。これは大切です」と学習会の開催を後押ししてくださった本村律子先生（前古藏小校長）と松岡泰成校長（識名小校長）へも感謝です。

学習会が終わると参加なさった先輩方や同僚と意見交換をさせていただいているが、その内容が3つのタイプに分かれていくことが見えてきました。例えば、学年主任をはじめとする先輩方は、「なるほどね。自分たちがやっていたことは間違っていたんだね。良かった～。こういう意味や裏付けがあったんだね。これまでの実践が整理されるさあ。」といった内容です。また、ある程度経験を重ねてきた（教職5年以上）先生方は、「自分はよく〇〇をやってしまいます。でも明日からは早速直して〇〇を試します！」というもの。教職経験が3年くらいの先生方は、「今日の話はよく分かりました。少しでも実践できるようがんばります！」となります。

[先輩方がこれまでの実践を理論で整理された後の表情は本当にかっこいいです。理由は2つです。明日からの実践がさらに確かなものになる実感と、常にご自身をアップデートし続ける姿があるからです。](#)私たちもこういうスタンスで学び続けたい！と思われます。[ある程度経験を重ねてきた先生方は、翌日からの実践的な対応をもっているので、感想を聞いていてワクワクさせられます。](#)学習会の内容が自身の経験の「あっ、この場面だ！」と絶えずリンクさせることができていてからこそその「実感を伴った感想」が溢れ出ているからです。教職経験がまだ少ない先生方にとっては今後の先行知識として学んでいる様子が見られます。こういう知識が後々の体験を経験へと導いてくれるもの信じています。教師の学びの過程に生じるこのような特徴にも合わせて、学習会の内容をバージョンアップしていきたいと考えています。



UCA化する社会において、今、ビジネス界の経営視点は「PDCA」から「[OODA](#)」へと移行しているそうです。PDCAサイクルが回せるのは「この先も大きな変化が無い」という前提がある時のようにです。「今は刻々と状況が変化しています。年度末に立てた計画をただこなすのではなく、状況を的確に把握し、目的に立ち戻って、計画を柔軟かつ大胆に変更することがむしろ当たり前である」と松田孝氏の言う視点を肝に銘じたいと思います。

コロナ禍で先が見えない今だからこそ、[先輩方が築き上げてこられた教育観をもとに、子どもたちの「今」を捉え、子どもたちが生きる「2030年の社会」をしっかりと見据えることのできる教師の学びの場を同僚と共にこれからつくっていきたいと思います。\[絶えずアップデートし続ける教師をめざして。\]\(#\)](#)